



学校報

笑顔と挑戦

井川義務教育学校
第 13 号

校訓 青雲大志

ともに学び、挑み続ける児童生徒の育成

令和8年2月27日

学校応援協議会(2/17)での評価について

2月17日(火)に、第3回学校応援協議会を開催しました。学校応援協議会は、学校と保護者及び地域住民等で構成された組織で、「学校運営への参画」、「学校運営の改善」、「児童生徒の健全育成」などに取り組んでいます。

学校応援協議会には、毎年度1回以上、「学校の運営状況等について評価を行うものとする」という規則があります。今年度5月に行われた第1回の会で、「学校方針の説明」、「具体的な取組と達成目標」について、委員の方々に示していました。今回の協議会では、このことについて評価をしていただきました。(A:よい B:概ねよい C:やや不十分 D:不十分)

学校評価については、以下のとおりです。委員の方々からいただいたご意見については、真摯に受け止め、今後の取組に生かしてまいります。

重点目標と取組 (一部抜粋)	学校自己評価	学校応援協議会評価
1 確かな学力の保障と授業改善 ○主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 ○算数・数学科などを核とした教科担任制や少人数指導の導入	C	C
2 積極的な生徒指導の充実 ○主体的・自治的な活動の充実による自己有用感の高揚 ○一人一人の活躍の場の創出による絆づくりの充実	B	B
3 豊かな心や社会性の育成 ○体験を通して学ぶ教育活動の充実 ○様々な形態での縦割り活動の充実	B	A
4 地域とともにある学校づくり ○諸行事や学習活動等における地域交流と人材活用 ○学校開放の推進、校報、たより、ホームページ等による情報発信	A	A
5 教職員の意識改革 ○分掌部会や期会の定期的な開催 ○教職員の主体的な学校運営への参画	A	A

〔重点目標1〕

- ・少人数指導の成果は出ているが、昨年度の課題が改善されていない教科が見られる。結果につながる指導を積み重ねてほしい。
- ・本校の「家庭学習の手引き」で示している各学年の家庭学習時間の目安を達成している割合は学年が上がるにつれ、

低くなっているのが気になる。

〔重点目標2〕

- ・「自分にはよいところがある」と回答している割合が全体的に低い。もっと自分のよさを発揮できるような声掛けや取組など、児童生徒に寄り添って自信を付けさせてほしい。
- ・今後もしじめについては、見逃すこ

となく迅速かつ適切に指導してほしい。

〔重点目標3〕

- ・運動会やなべっこ会などの各行事で高学年、低学年の関係がよい。縦割り班活動が機能していると感じる。
- ・今後も道德教育の充実を図ってほしい。挨拶は校内ではよいが、校外では不十分だと感じる。声掛けをしても返ってこないことがある。挨拶は人間生活の基本。もっと高めていってほしい。

〔重点目標4〕

- ・井川みらい学だけではなく、教育活動において、地域や各団体などとの関わりがあるので、成果に結び付いている。
- ・地域貢献に関しては県平均と比較して高く、保護者アンケートの数値も高い。今後も地域との関わりを大切にした教育活動を継続してほしい。

〔重点目標5〕

- ・今後も義務教育学校のよさ、特色などについて、教職員が共通理解を図り、児童生徒の指導に努めてほしい。
- ・教科担任制や複数担任制など、本校ならではの特色を十分に発揮し、児童生徒のよりよい成長に結び付けてほしい。

3年 今戸願人踊り 今戸子ども民謡手踊り



2月6日(金)、井川町の伝統芸能について学習している3年生が、今戸願人踊りと今戸子ども民謡手踊りを披露しました。発表会までには、様々な苦労があったと思いますが、当日はこれまでの練習の成果を十分に発揮できたすばらしい発表会となりました。仲間とともに一つのことをやり遂げた喜び、達成感、最高の思い出となったはずです。3年生の皆さん、感動をありがとう。

1年 昔遊び集会



2月13日(金)、1年生が昔遊び集会を行いました。この学習活動は、地域学校協働活動推進員の方々に協力していただいています。子どもたちは、ふだん遊び慣れていない昔遊びに悪戦苦闘しながらも、みんな楽しそうに活動していました。

調理員さん ありがとう集会

2月18日(水)、給食調理員さんへ感謝の気持ちを伝える会を開催し、各学級の代表児童生徒が、調理員さんに感謝の気持ちを伝えました。児童生徒一人一人の感謝の気持ちを多目的ホールに掲示していますので、来校時にご覧ください。



9年茶道体験教室



1月23日(金)、9年生が茶道を体験する教室を開催しました。今年度も、ふれあい学習(4~6年)の茶道クラブの指導者の方々に協力していただき、9年生がお茶を点てました。

茶道の細かい作法に戸惑いながらも、笑顔いっぱいの表情でお茶うけの和菓子をいただく9年生。受験に向けたエネルギーもいただきました。入試まで残りわずか。頑張り9年生!



校長のつぶやき

意思疎通を円滑に進めるために必要な力

□アサーティブ・コミュニケーション

「自分の思いや考えを素直に他人に伝えることが得意ではない」という人は少なからずいると思います。人に何かを伝えるとき、「こんなことを言ったら相手が不愉快に思うかもしれない」「相手に嫌な人だと思われるかもしれない」など、あれこれ悩んで、気持ちをうまく伝えられないという経験は誰にでもあると思いますが、残念なことにどうしても伝えなければいけない場面が日常生活の中には数多くあります。「言いたいけど言えない」というストレスを抱えながら日常生活を送るのは、かなり苦しいことです。自分を抑えながらコミュニケーションをとっていると、次第に不満がたまります。時には、自分が我慢していることに気付かない相手に対して、「なんで察してくれないの」と思う場面もあるかもしれません。

皆さんは、アサーティブ・コミュニケーションという言葉を目にしたことがありますか。アサーティブ・コミュニケーションとは、「自分自身を大切にしながら、相手も同じように大切にすることをコミュニケーション方法」として使われています。自分の気持ちを把握し、感情をコントロールしながら、言葉を選んで伝えることで、他人と円滑な人間関係を築くことができます。

自己主張パターンには、次の四つがありますが、皆さんはどれにあてはまりますか。

- 自分のことだけを考えて相手のことは考えない(アグレッシブ)
- いつも相手を優先し、自分をあと回しにする(ノンアサーティブ)
- 自分を大切にしながらも、相手への配慮もする(アサーティブ)
- 自分も相手も大切にしているつもりになっている(アサーティブもどき)

□思いを伝えるスピーチ

以前、ある学校に勤務していたとき、中学3年生のクラスに対して読み聞かせをする機会がありました。その学校では、年に数回、先生方が生徒に対して朝読書の時間に読み聞かせをする時間が設定されていました。私は、どんな本を選んだらよいか迷いましたが、『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』(くさばよしみ・編)という絵本を選び、読み聞かせを行いました。

この本は、2012年6月、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた国連の「持続可能な開発会議」で演説した南米のウルグアイのムヒカ大統領について書かれています。「世界が抱える諸問題の根源は、我々の生き方そのものにある」と説いた伝説的スピーチは、後に世界の人々から絶賛されました。この絵本は、その全容を紹介したものです。

彼のスピーチは、社会の発展と人の幸福を言い当て、簡潔に且つ的確に、歯止めがきかない人間の欲への警鐘を鳴らしました。彼のスピーチが終わると、ひときわ大きな拍手がわき起こったと言います。

聞き手の共感や賛同を得て心を動かすことがスピーチの最大の目的です。その際、大切にしたいことは「For me(私のため)」ではなく「For you(聞いている人のため)」という意識で話すことだと思います。

皆さんも人前でスピーチをする機会が今後も必ずあります。そのときには、聞いている人のこと(For you)を意識しながら、自分の思いを自信をもって伝えてほしいと思います。普段の何気ない会話でも大切なことです。